

# 校友会報 120



(出雲大社)

## KOGAKUIN UNIVERSITY

目次		
次の用意を周到に	聞き誤りの科学	お知らせ.....18
南雲 芳夫.....1	江袋 林蔵.....5	校友の皆様へ.....19
21世紀へ向かって前進する学園	学園だより	第13回全国大会(島根大会)のお知らせ.....21
北郷 薫.....2	長嶋 秀世.....9	
アドバンスト マテリアルス センターの	支部だより.....12	
完成と大学における研究活動の活性化	事務報告、予算、決算.....15	
鈴木 敏之.....3	総会開催のお知らせ.....17	



## 「次の用意を周到に」

校友会会長 南雲 芳夫

いろいろな人に会うときに、あちらこちらで花の噂を耳にしなが、今この御挨拶を書いています。皆様におかれてはご健勝のこと、喜びまた念じております。

変わらねばならない、と皆が思い、その努力を人々がそれぞれの場で傾けつつも、依然としてその先が見えてこないこの世情。しかし、桜は桜です。せめて、寒い冬から春へ、そして緑あふれる初夏を用意してくれるのですから、その自然の恵みに感謝し楽しもうではありませんか。

昨年の御挨拶にも記しましたように、校友会会長の任務に邁進しながらも、その仕事のまとまりをも私なりに考えております。学園が、その総力を挙げて取り組んでいる「5ヶ年計画——ジャンプ21」も4年目に入ります。八王子の新構想が予定通りに進むことを祈りたい。そして、私達校友をはじめとして、学園に関わるすべての人びとが、21世紀という新しい時代に立派に対応して貰いたい。校友各位や、理事の方々から戴いている御尽力に深謝申し上げると共に、この1年の更なる御協力をお願いするものです。

私達は、花を見て春だなど思う。陽射しの強さに初夏の訪れを感じる。しかし、桜や桃は暖かくなってから芽をふき花を開き葉を出すのではない。寒いうちにすでに用意をしている。冷たい土中で、根が近づく春の用意をしているのです。自然は何万年の経験の中から寒い冬の後には暖かい春が来ることを知った。名句にあるように「花開けば風雨多し、人生別離足る（ハナニアラシノタトエモアルゾヨ、サヨナラダケガジンセイダ）」ということも、とうに知っているのです。

しかし人間はどうなのだろうか。次を予測することを「実行」しているのだろうか。その時になって初めて、「用意が足りなかった。するべき準備をしておけばよかった」となるのが、例えば、私などの常ではあります。私のような経済人がいま学んでいることは、「商品は便利で安ければ売れる」という常識はもう常識ではない、ということです。「文化経済学」という学問があるそうですが、商品の文化的価値が大事な要素になってきているということです。工学院の技術に文化的な要素が添加されるというのは、いったいどういうことなのか、私には想像しにくいのですが、私達の学園には、そんなことぐらい既に十分に理解し、用意し、展望を開いていく人材が溢れているはずで、期待して已みません。

最後になりましたが、第13回全国大会の場で校友会・学園の発展を皆様と共に祈りたいと思っております。

下記の方々が、校友会の常任理事です。ご支援をお願いします。



総務担当副会長  
恒松 良一



財務担当副会長  
片岡 国幸



広報担当副会長  
寺島 敬二



企画担当副会長  
吉岡 暁一



事業担当副会長  
杉山 助一



組織担当副会長  
高木 雅行



総務部長  
宮澤 正義



財務部長  
渡辺 征一郎



広報部長  
太田 雅康



企画部長  
山田 文昭



事業部長  
谷口 宗彦



組織部長  
松乃 迪夫

## •ごあいさつ



## 21世紀へ向かって前進する学園

理事長 北郷 薫

校友の皆様方におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

時が経過する速さには驚くばかりです。本学園が創立100周年を迎えたのは昭和62年（1987年）であり、それから10年が経過して創立110周年を迎えた平成9年（1997年）から早くも2年が経過して、現在、私達は平成11年（1999年）の年代に入りました。あれほど、騒がれていた紀元2000年を、あと何か月かで迎えることとなります。

本学園の新宿校地再開発工事を起工したのは、丁度、学園創立100周年記念の年である昭和62年であり、全工事を完了したのが平成7年（1995年）でした。

従って、創立100周年を新宿旧校舎で迎えた私達は、創立110周年は、日本では最初のものであり、世界でも珍しい都心の高層棟新校舎で迎えることができました。この10年間に本学園が、この一大事業を完成したことは、何年かの余裕をもって、新しい21世紀へ向かって前進するための有力な拠点を築いたと言えましょう。

また、八王子校地においては平成9年度の文部省ハイテク・リサーチ・センター整備事業として認定された「工学院大学・総合研究所アドバンス ト マテリアルス センター」が平成10年4月か

ら活動しています。さらに、平成10年度中には、最新の工作機械を設置した「テクノ・クリエイティブ・センター」と、新しい「セミナーハウス・松風舎」が完成しました。

平成11年度には、八王子校地へ新教室棟が建設されることになっています。本年度は本学園が「学園5ヶ年計画—ジャンプ21」と名付けている計画（1996～2000年）の第4年目に入る年になります。

同計画の進行度は「プロGRESSレポート」として、理事会より発表されていますが、同計画は大体において予定通りに進行しています。専門学校、附属高等学校、同中学校の整備も近く目に見えてくるでしょう。

どうか、校友の皆様方におかれましては、本学園の大学院、大学学部、専門学校、附属高等学校、同中学校に対して、これまで通り、ご支援下さいますようお願い申し上げます。

本学園の校友の皆様方の社会における活躍を見ることが、私たち本学園の教職員ならびに在学・在校生にとりまして何よりも大きい喜びであります。

校友の皆様方の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



## アドバンスト マテリアルス センターの完成と大学における 研究活動の活性化

機械工学科教授・総合研究所所長  
鈴木 敏之

総合研究所ニュースでも逐次ご報告致しましたように、文部省の「平成9年度ハイテクリサーチセンター整備事業」に採択されました。「工学院大学総合研究所アドバンスト マテリアルス センター」(以下AMCと略称)は、八王子キャンパスにおきまして、平成9年9月から研究棟の建築工事が行なわれておりましたが、予定通り平成10年3月末日で工事が完了致しました(写真)。

その後直ちに装置・機器等の搬入と調整にかかり、全面的な研究開始のめどがつけました平成10年7月9日には、内外の多くの関係者の方々をお招きして開所式を執り行いました。校友の皆様にも多数ご列席頂き、AMCの船出をお祝い頂きましたこと、ここに厚く御礼申し上げます。当日は、お招きしました方々に、AMC内に設置されました最先端の研究用装置・機器と、行われております研究の実施状況をくまなくご覧頂くことができました。現在は付帯設備等の整備が若干残ってはおりますが、研究テーマを先端材料関係の3つのプロジェクトに絞ったことや、それらに必要な最新の装置・機器を集中して整えたこともあって、開所式直後から開始された研

究は、どのプロジェクトもエンジン全開に近い状態にあります。近い将来には多くの注目すべき研究成果が得られるものと期待しております。

次にAMCの具体的な内容、即ち研究棟の概要、設置された実験用設備・機器、各研究プロジェクトの内容、研究組織、そして研究予算について申し上げます。

まず研究棟の建物ですが、研究棟は平面図に示したように、鉄筋コンクリート造4階建てで、延床面積が2073㎡、1階は各プロジェクト共通の分析機器類が配置されており、2階がプロジェクト2の実験室、3階がプロジェクト1の実験室、そして4階がプロジェクト3の実験室となっております。

補助金により購入しました主要な研究用設備・機器は以下の8点です。

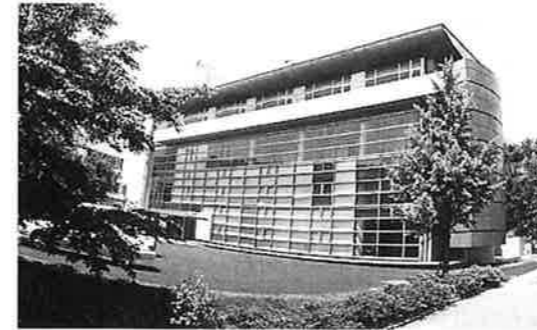
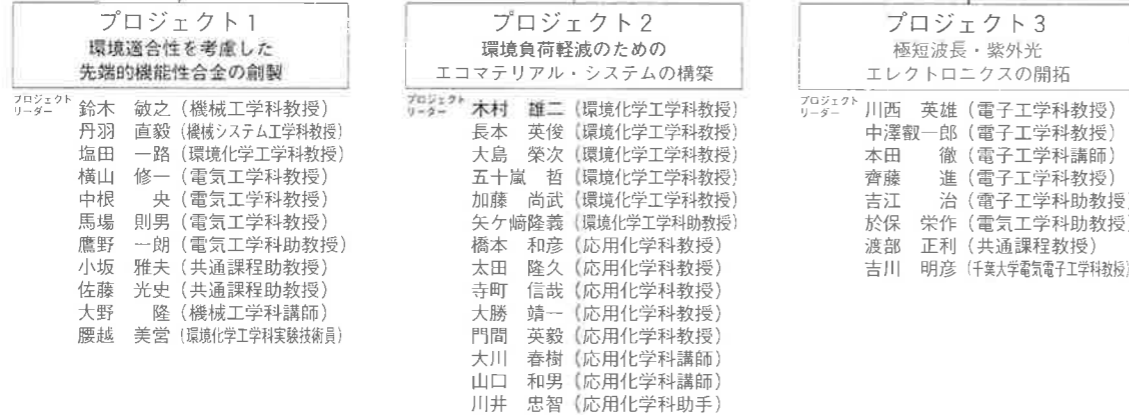
### (研究装置)

- マルチプロセスコーティング装置
- 質量分析装置
- 半導体エピタキシャル成長装置
- 分子構造解析装置

### 組織図

代表者 大橋 秀雄 (大学学長)

総合研究所所長・センター長 鈴木 敏之



### (研究設備)

- 高真空材料試験装置
- 気体輸送法による合金合成装置
- エコマテリアル・システム解析装置
- レーザー顕微鏡

その他に、新宿校舎からAMCに移設した大型の装置や、ハイテクリサーチセンター関係以外の文部省からの補助金で購入したものが数点あります。

AMCで行われております研究内容をかいつまんで申し上げますと、AMCでは3つの研究開発プロジェクトを設け、5年の期間(平成13年度まで)で研究を行います。研究テーマは、

P-1が「環境適合性を考慮した先端機能性合金の創製」

P-2が「環境負荷軽減のためのエコマテリアル・システムの構築」

P-3が「極短波長・紫外光エレクトロニクスの開発」です。それぞれのプロジェクトの研究内容を要約しますと、P-1は、省エネルギー・省資源を実現するための高機能性合金の開発あるいは材料の高機能化、すなわち、過酷な環境に適応し得る先端高機能材料の創製、P-2は、環境負荷そのものを軽減する材料ならびに材料プロセス・システムの開発、すなわち、生分解性プラスチックなどのエコマテリアルの開発と、材料リサイクルのためのプロセス・システムの構築、P-3は、本学が独自に提案してきた(BAlGa)N多元混晶半導体による紫外線半導体レーザー素子の作製へ向けての要素技術の探索と確立、ということになります。

研究組織は、組織図のように大橋秀雄学長に研究組織を統括する代表者をお願いし、私がセンター長を務めております。プロジェクトメンバーの数は、3プロジェクト合計して33名です。なお、来年度からは、これに研究

経歴：1932年1月宮城県仙台市生まれ、1954年東北大学工学部金属工学科卒業、1957年科学技術庁金属材料技術研究所研究員、1988年工学院大学工学部生産機械工学科教授、現在は機械工学科教授、総合研究所所長とアドバンスト マテリアルス センター長を兼務・日本熱処理技術協会副会長(1995~97)・科学技術庁第47回注目発明(1988)・日本熱処理技術協会賞「林賞」(1993~97)・著書「チタンのおはなし」日本規格協会(1995)ほか・論文「Control of Al Concentration on Ti Surface by means of Chemical Transportation Technique」Materials Science and Eng., A243 (1998)、「NiAl単相中における相互拡散」日本金属学会誌62巻8号(1998)ほか。



支援スタッフとして、リサーチアシスタントとポストドクターが数名加わる予定です。

最後に研究費について申し上げますと、補助事業の総額は約11億円ですが、その大部分は研究棟の建築費と研究用装置・機器の購入(平成9年度)にあてられ、平成10年度からは、3プロジェクト合計して、年間約2500万円の予算で研究が進められております。

以上述べましたAMCの概要は大学のホームページにも記載されております。アドレスは

<http://www.kogakuin.ac.jp/resarch/>です。さらに詳しい内容につきましては、パンフレット等が用意されておりますので、総合研究所へ直接ご連絡下さい。

何はともあれ、私が最も期待しておりますのは、これがきっかけとなって、大学内で行われております研究活動が大いに活性化されることでもあります。そして次の段階では、得られた多くの研究成果が我が国の産業の発展に少しでもお役に立つことでもあります。今後の研究活動にぜひご注目下さい。なお、来年の秋には研究成果の中間発表会とAMCの見学会を計画しております。いろいろなルートでご案内を差し上げる予定ですので、ご参加をお待ちしております。



## 聞き誤りの科学

足利工業大学  
教授 江袋 林蔵

### 1. はじめに

父 明日は給料日だね、カズ君。  
 祖母 そうですよ。(96歳・遠耳)  
 父 お母さんよく知っていますね。  
 祖母 知ってますよ！明日は民謡の日ですからね。  
 父 民謡の日というと、どうして給料日なのですか？  
 祖母 民謡の日は金曜日ですからね。  
 父 ???！エート、給料日は金曜とは限りませんよ。  
 祖母 どうして！あすは、金曜日で民謡の日ですよ。  
 カズ 給料日と金曜日と間違えてるんですよ。  
 わが家には97才になった陽気なおばあちゃんがいる、ときおりこんな会話が交わされます。おばあちゃんでもなくとも、親子でこんな会話も交わされます。  
 娘 ……、お土産も買ってもらって、タンズいっぱい買ってもらって。  
 母 ???！、タンズいっぱい何買ってもらったの？  
 娘 やーだ、お母さん！淡水パールを買ってもらったのよ。  
 一寸した聞き誤りが、とんでもない会話に発展しかかったのが前の例で、すぐに分かったのが後の例です。笑い話のようですが、なかなかどうし

てそうともいきません。  
 会長 規制緩和による新規参入の動きは、カクカクしかじかでエ……  
 部長 アノー途中で恐れ入りますが、新規産業と申し上げますと、どのような方面で？  
 会長 ……、(何だこの男！)  
 出世も逃しかねません。いろいろと大事な話の時などや笑い話ですませないようなときなど、問題でしょう。最近は音声入力がかきりと話題に上りますが、認識の誤りも問題になっています。これも聞き誤りの類のようです。  
 さて、このような誤りがなぜおきるのか？も気になります。その前に、これを定量的に分析出来ないか、という問題があります。私は、いま、一生懸命この問題に取り組んでいます。というのは、音声入力は、大いに期待されているコンピュータ入力のもう一つの手段で、音声自動操船など産業用にはずいぶんと使われていますが、一般にはなかなか思うように普及しないからです。また、将来は、宇宙活動にも必要と思われるが、是非そのようなになってほしいと思うからです。ここでは難しい話は抜きにして、その研究の一つ、人の聞き誤りの研究の現状をお話ししようと思います。

### 2. 誤りの生成要因

人の聞き誤りを研究しようとするとき、冒頭にあげたような会話を研究することになりますが、

これまでの工学的な知見の範囲ではなかなかとりつきようがありません。そこでこれまでの、認識工学の知識をフルに活用することの他、音声学の力を借り、また、新たな分析の手法を導入する事を考えます。それを要約すると次のようになります。

音声学的研究の範囲には、調音音声学、音響音声学、聴覚音声学の3領域があるといわれています。

イ. 発声側の誤り：音声学的原因はいろいろありますが、これをまとめて「言い誤り」としておきます。これらは次のように分類できます。

- (1) 感知する際の誤り。
- (2) 認識する際の誤り。
- (3) 発声の意志生成時の誤り。
- (4) 発声の誤り。(分節音-調音-や非分節音-高低・音調-などの誤り)

以上のような簡単なことからでも、そのほかの要因を定性的に考慮することが出来れば、「調音の誤りか否かを定量的に知る」だけでかなりの知見が得られそうなことが考えられます。

ロ. 環境・音響的要因：発声と受聴間にある「音響的環境」「騒音環境」「心理的環境」「生理的環境」があります。ここではこれらを捨象して考えます。

ハ. 受聴側の誤り：その要因はまたいろいろありますが、これを総称して単に「聞き誤り」としておきます。原因としては次のようなものが考えられます。

- (1) 受聴の誤り
- (2) 受聴した音(おん)を音(おと)として認識するときの誤り。
- (3) 受聴した音の意味を理解する時の誤り。
- (4) 理解した結果を出力することの誤り。

a. 書き損じ

b. 発声の誤り。(分節音-調音-や非分節音-高低・音調-などの誤り)

ここでも出力側の定量的な分析が可能であればかなりのことが分かりそうな気がします。

ニ. その他：例えば、データ整理上の誤り等。たとえば、ディクテーションなどのデータ整理をする際、60歳以上の高齢者の方の書き記したものを、20歳ぐらいの学生が誤りチェックをすると、「ジュース-ジュース」「ケンキウ-ケンキウ」といった類の書取りを、そんなことはないのですが、誤りとしてしまいます。新旧交代の時を思い知らされます。

何れにせよ、以上のようなことは、それぞれにそれぞれの分野でかなりの専門的な研究がなされていて、網羅的に取り組む術もありませんが、上述のように、イ. 発声側の誤り、や ハ. 受聴側の誤りにおける、発声や書取りといった「人の出力の形態」を定量的に調べることがかなり重要な事であるように思われます。

### 3. 定量化の方法

きわめて簡単なことです。ローマ字綴りは、いささかの問題はありますが、大雑把に言って人の発声の音素の綴りになっています。この音素の違いがいくつあるかを数えれば、一対の単語の相異を記述できます。このような定量化の方法を相異度法と言っています。例えば、「山/川」は、「YAMA/KAWA」で、それぞれの音素の数の差は0、相互に異なる音素は、YとK、MとWで、その数は2です。そこでこれを[0, 2]と書き表して「相異度がゼロニイである」と言っています。この場合、全体の音素数の差は、0+2=2となりこれを「相異度指標が2である」といいます。統計的に、相異度指標が2以下の誤りが5~6割を占め、相異度指標が3~5でほぼ残り4割ほど、6を越えてもあることはあるのですが、

大変に少なくなることが実験により確かめられております。調音というのは、例えば、子音の場合ですと、口の中だけで舌の先を跳ねたり摩擦したりして顎をほとんど使わずに発声するようにして音を整えるようなことを言います。ローマ字の「T」とか「K」などはこのようにして子音の調音をするように指示するもの、「A」とか「E」などは、顎を動かして子音よりは大きく口を動かす形の母音の発声を指示する記号であります。日本語の発声の特徴は、この子音と母音の組み合わせが規則的であると言うところにあります。相異度法の計算則には、このような言語的な特徴を組み入れるようにして、現在の訓令式ローマ字表記法にいささか手を加えております。

以下に、事例に則して断片的ではありますがその分析法の一端を見てみましょう。

#### 4. 言い誤り

放送番組での例：

\*匿名希望のお手紙を読んで、「名古屋のトクベエさん有り難うございました！」

\*ダニエラが「わたしはごはんをアシで食べます」イタリアの人は、H音が苦手とのことでした。

\*森本タケロウ：すごいですねー、(食管法を)税金と間違える。「街頭で：食管法って何ですか？道行く人、直間法？直接税と間接税の比率ですか？……イヤー！さすがに尺貫法と間違える人はいませんでした」

トクベエさんの例は、相異度指標が1、ダニエラの場合も1、森本タケロウの場合は、1と2というように計算され定量化されます。つまり、相異度指標が1ということは、音素が一つですので、現象的には調音上の誤りかもしれない？、というところから分析が始まります。相異度指標が2というのは、音節の誤りとなり、明らかに調音を含めた他の要因も考えられます。

#### 5. 言い換え

森本タケロウの、食管法/直間法/尺貫法のうちの尺貫法といったケースがこれに当たります。「電池創造」や「健康乳良児」という広告がありました。落語の落ちの「甲府イー、お参り願ほどき」というのも、ドリフの「変わらぬ仲間、変わらぬ瓦という」のもそうです。だいたい1音節の入れ替え、つまり相異度指標が2くらいで、少し気付かれて、オヤと思わせ洒落た余韻を引くような構文にするというのが言い換えのコツでしょうか、これが相異度指標2位の効果のところ。仲間と瓦は、母音(響き)が皆同じで子音による相異度指標の値が3です。つまり、響きをベースに利かせ、その上に乗せるようにして日本語の構成をうまく利用したドリフの演技が効果を引き出しています。これらのようなところから、コマーシャルや落語での言い換えをするというのは、意外性とアトラクティブな効果で印象付けを狙っていると考えられます。

#### 6. 聞き誤り

会社での伝言メモを見てみましょう。

\*イケガイキイン筑波支社の…さんより…：

イケガイキハンの誤り。 [相異度指標2]

\*ミツハラ様より電話あり：

ミツハラ様の誤り。 [1]

\*金沢大学の誰それ様より電話：

神奈川大学 [1]

\*研修所チョウム部長様より…：

総務部長。 [2]

挙げればきりがありません。これらも相異度の低いところでの誤りです。いずれも、確りとメモされていますので、確信犯的な誤りで、明らかに認識の誤りといえましょう。低相異度領域で起こりがちなものと見てよいようです。この他に、参入を産業と聞き誤ったケースなどは、相異度指標

が3で、いささか念が入っていて単純な誤りとは言えないようです。聞き取った単語を、自分の「文脈」に組み込めなかったケースで、上司からは、「職務上必要な文脈が頭に組み込まれていない」といった不信感をもたれる原因になります。会話とは恐ろしいものです。

#### 7. 形態的な誤りと心理的な誤り

誤りを見ると、低相異度領域における単純なものと同相異度の高い方での複雑なものがあります。前者は相異度という範疇での形態的あやまり、後者は、様々な要因からなる心理的な誤りと見ることが出来ます。

このようなケースを見回して、およそ冒頭のおばあちゃんや淡水パールの会話例が理解できるのではないかと思います。給料日と金曜日は、相異度的には小さくありませんので、単純な聞き誤り、と言うよりは思い違いとでも言いましょうか、頭に組み込まれている文脈上の問題と見られます。何の根拠もないのですが、一応、「いささか自己主張を強くする」とこのような誤り、「気が小さい」と上の部長さんのような誤りの形になると考えてみては如何でしょうか。こうなると心理的な誤りと見てよいのかもしれませんが。

さりげない日常会話の中から、非常に単純ではありますが、筋道を立てる手がかりがあると何か

が見えてきて、思考を深めることが出来る、と言うことを見てきました。一見関係がないように見えますが、このような研究は、音声認識装置の使う側から見た研究と改良に有用であることがその後の研究で分かってきました。これからは、工学部でも、現場での実用研究を組織的にを行い、これを教育に取り入れていく事がより一層要求されるようになると思います。

#### 8. 聞き誤りの科学

ユークリッド原論の第1巻定義の1. は、「点とは部分を持たないものである」、というものです。誰にでも直ぐに認められるような単純な立論で始まるこの議論は、理解しがたいような複雑な事象を簡明に解き明かす働きをして、我々人類に限りない恩恵をもたらしてくれました。しかし、このような単純な定義に到るにはどれほどの思索が重ねられたことでしょうか。科学というのはこのようなことを言うのではないかと思っています。相異度法の理論は、機械認識の検証に始まり、このように人の聞き誤りを分析できるところまでできました。しかし、まだまだ思索を重ねているような状態で、とてもユークリッドのような所までは行き着きません。道遠しというところです。ご清読有り難うございました。

略歴：昭和35年3月、本学2部電気工学科卒業：卒業研究「不連続制御系の近似最適解」(特許)。

昭和53年10月、「色検知装置他4件」の発明に対し発明奨励賞受賞。

平成元年3月、「音声入力システムの性能評価法」(相異度法)の研究に対し本学より博士学位授与される。

平成2年上記研究に対し、科学技術庁長官賞受賞

昭和32年～昭和63年日本電気(株)勤務：研究所～産業オートメーション事業部技術部長～技師長、本社C&Cセンサー総合開発本部長。

昭和63年日本電気精機(株)技師長～顧問、その間、社長了解の下に、工学院大学及び足利工業大学非常勤講師勤務、平成8年足利工業大学経営工学科教授、大学院ではマンマシンシステムを担当。

\*現在：同学経営情報工学科教授、本学非常勤講師、日本人間工学会評議員、日本感性教育学会企画推進部会長、本学博新会会長。

\*現在の研究領域：人と機械を対象とした音声の認識誤り(相異度法)、システムエルゴノミクス(マクロロジック法)、感性教育。

\*趣味：書道、日本画、園芸(菊)。



## 21世紀へ向けての学園

学務・企画担当常務理事・八王子管理長・

電子工学科教授 長嶋 秀世

(肩書きは平成10年3月現在のもの)

卒業生の皆様にはいかがお過ごしのことでしょうか。平成大不況で日本中が厳しい状況にあります。学校経営においても同様で、就学人口の減少により冬の時代とも言われています。この先も人口の減少は続きますので、教育産業のみならず、住宅、電気機器産業など内需に依存する産業はデフレ傾向になるものと思われます。学園も存続をかけて懸命の努力をしております。ここでは、平成10年度に行われた行事や新しい建物についてご報告します。

### 法人

平成10年10月1日に、学園広報を効率的に運営し、充実させるため、企画部を改組し広報部を新設しました。広報部は学園広報誌「窓」、学生募集を行う「CITY」などをはじめとして学園内のすべての広報誌を発行し、速報性のあるホームページの管理運営を行います。広報部では「理科教室」、「理科論文」の大きな広報業務を行っていることは知られていますが、そのほか、関東近隣の各市町村に対し「出張講座」を行っています。これらは学園が地域社会に対し学術的な貢献を果たすとともに、工学院大学とその関連校についてよく知ってもらうことにあります。平成11年度からは、前述の教育委員会向けに行っている「出張講座」を高校向けにも拡大する予定です。

財政面についてはこれまで校友会報では書きませんが、今回は経理の資料に基づき簡単に述べます。本学園は、いま新しい建物を次々と建てていますがこれは新宿校舎の建設資金の残りであり、さらに、教室棟、体育館の建設まではこの資金があります。しかし、この後

はお金を貯めないと新しい建物を建設することができません。そこで、補助金、寄付金を含む学園の総収入（これを帰属収入と言う）に対する貯蓄高（これを基本金組入額と言う）を基本金組入率と言います。この基本金組入れは将来の建物や教育研究機器備品への投資を行うためのもので、将来を制するものです。この値が小さいと将来が危ういということになります。本学園の平成9年度の基本金組入率は10.9%で、私大平均18.7%より大きく下回っています。このように、基本金組入率が極端に低いのも本学園の特徴です。現在は、無駄な支出や人件費の抑制を行い、消費支出比率を改善することにより、15%の組入を確保できるように努力をしています。消費支出比率はこの1-2年やや改善の方向に向かっています。

### 大学

平成10年度中の主なできごとについて以下、箇条書きに述べます。

◆情報工学科、建築都市デザイン学科の2学科の新設：平成10年12月22日に文部省より、かねてから申請中の前記2学科を増設することが認可され、平成11年度より開設されます。入学定員は情報工学科80人、建築都市デザイン学科60人ですが、平成11年度までの期間付き入学定員（臨定と言う）は、情報工学科40人、建築都市デザイン学科は10人で、これがそれぞれ加えられます（窓の4月号に詳細を載せてあります）。

◆学芸員養成課程の開設：博物館の学芸員の資格が取れる制度を平成11年度より発足します。

◆副学長制度導入：平成11年度から副学長が設けられま

す。副学長の職務は、学長を補佐し、必要に応じて学長の職務を代理することであると規定には書かれています。

◆アドバンスト マテリアルス センター開設：すでにお知らせしてある文部省の補助金によって建てられた研究施設が開設されました（写真1）。

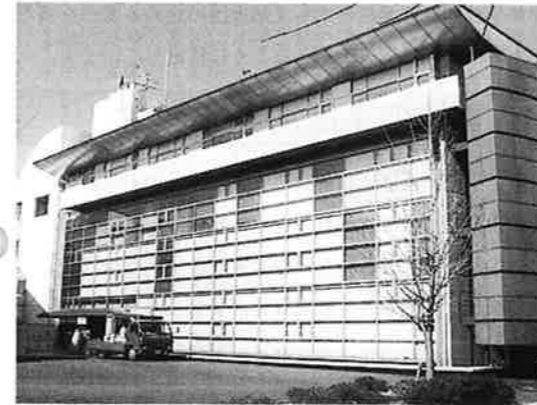


写真1

◆「セミナーハウス松風舎」竣工：大学後援会からの寄付金に学園の資金を加え、老朽化していた松風舎を建て替えました。この建物は、10畳の部屋が8室、60㎡のセミナー室が1室で構成されています。平成11年度から学生・教職員が利用できます（写真2）。



写真2

◆TECC（テクノ クリエーション センター）竣工：最新の工作機械を収めるTECCがC校舎の横に、平成11年1月19日に竣工しました。建物延面積は約300㎡、一部2階建てになっています（写真3）。

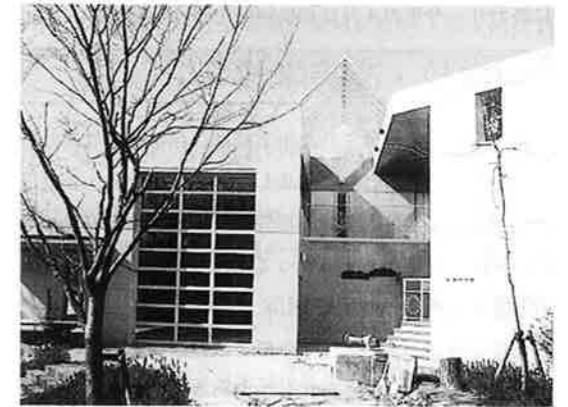


写真3

◆学生用駐車場の新設：八王子校舎に居る大学院生・卒論生、学部学生のうち自動車を利用している学生のために100台の乗用車が駐車できる駐車場を作りました。

◆教室等のマルチメディア化促進：文部省の補助金により54教室がマルチメディア化されました。新宿校舎はA0312のほか21教室・セミナー室3室・会議室8室、八王子校舎は教室26教室・セミナー室4室・製図室1室・会議室1室などとなっています。

◆新宿校舎学生ホールの拡張：新宿校舎に來られた方はすでに気がつかれたかとおもいますが、地下1階の学生ホールが拡張されました。これも学生サービスの一環です。

### 将来構想

◆新学部、新学科の開設の検討：新しい学部開設の可能性を探り、単科大学からの脱皮をはかり、幅広い応募者を見込んでいます。さらに既存学科の改編によって魅力ある新学科に再編する作業を開始します。新学科開設は平成14年度、新学部開設は平成15年度を目標としています。

◆八王子校舎に新教室棟：新教室棟は、延べ面積4,000㎡で、情報演習室70人×4室、教室80人×3室、120人×3室、180人1室、ゼミ室20人×3室、学生ラウンジからなります。建てられる場所は体育館の北側で道路と体育館に面してL字型になっています。基本設計はすで

に終わり、今年の4月には地鎮祭を行う予定です。

## 中学校・高等学校

平成8年度に設置された中学校は、今年度で最初の卒業生を送り出すことになりました。このなかで、8割以上の生徒は工学院大学付属高等学校に進学するので、平成11年度より学年進行に伴って高校の一部で中高一貫教育を実施することになりました。

高等学校は、工学院大学への多数の進学志望者の期待に充分に応え、また多様化しつつある生徒の進路志望に対応するため、中高一貫教育の整備・充実とともに、従来の高等学校教育の、より一層の充実を目指しています。

現在の社会情勢から、男女共学制への移行についても早急に取り組み、学校五日制や新学習指導要領下における特色ある教育の検討を行います。

いま、中学校・高等学校校舎の建設を予定し、資金の積み立てを始めています。

## 専門学校

本校は、前身の工手学校設立当時から、職業人の実践教育を主眼にしてきました。近く大学全入時代を迎えるという状況より、旧来の工業系専門学校の枠組みを変え、若者の動向、社会のニーズにあった分野で、地の利を活かした生涯教育を行う機関とします。このためには、教育を担っている教員の研修・研鑽を行う必要があります。

◆夜間部卒業式第200回記念行事：今年度は専門学校夜間部の卒業式が創立以来200回を迎えます。この祝賀行事を行います。

### ◆学科再編成計画

専門学校内に学科検討委員会を設置して、学科再編成等の検討に着手しました。産業界の動向に合わせて、学科の変更が簡単にできるのが専修学校設置基準の特徴です。工業技術の実践的教育を目標に、志願者動向、教員配置等を考慮しながら、学科の新設・改廃に慎重に取り組みます。

夜間部については、大学卒業生や専門学校卒業生等を対象に、産学で協同してレベルの高い付帯教育を展開する予定です。入学者の減少は避けようもない状況にあり、夜間部継続の規模等、経営指針策定が課題です。

◆専修学校の専門課程の修了者の大学への編入学等  
専修学校の専門課程のうち文部大臣の定める基準を満たした者は大学に編入学できるように検討しています。

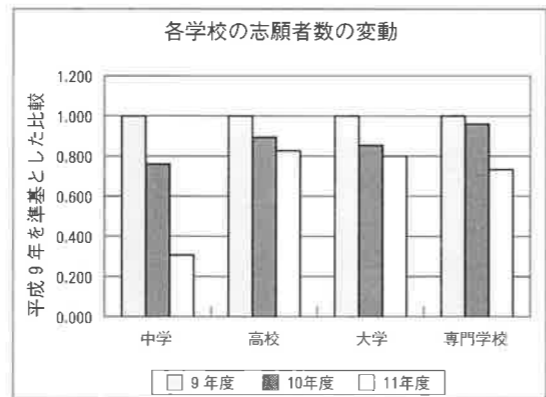
## 各学校の年度別志願者数

各学校の年度別志願者数を表1に、その推移のグラフを図1に示します。各校とも少子化傾向と言われる就学人口の減少により苦戦していますが、中学校は校長、教頭の交代が理解されずに志願者が著しく減少しています。

表1 各学校の年度別志願者数の推移

	中 学	高 校	大 学	専門学校
9年度	559	845	11,785	493
10年度	428	755	9,933	466
11年度	180	686	9,365	369

専門学校の11年度分は途中経過で、3月31日まで入試があります。



## 社会人大学院制度

働きながら大学院で修士、博士をめざしませんか。詳細は19ページをご覧ください。

## ●支部だより

昨年に引き続き、平成10年度の全国支部の活動も概ね活発に推移しております。1月現在全国58支部中、37支部において総会が開催され、延べ約900名の校友が参加され親睦を深められました。また、永らくお休みをしていた埼玉中央支部と、石川県支部が活動を再開されました。

校友会活動は、私たち学園OBの親睦活動であると同時に、学園に在籍する後輩を含め、若い会員への数少ない支援活動の場でもあります。一層の若い会員の参加促進と将来活動を担って頂く若手会員の育成が全支部共通の課題と考えます。その意味で、支部活動を単なる年一回の宴会で終わらせるだけでなく、釣、俳句、見学、旅行、花見、等々家族ぐるみで楽しめる会として発展されている支部も増えてきており、今後の発展が期待されます。

支部活動の活性化に日夜ご努力頂いている支部長様をはじめ、幹事の皆様には誠に頭の下がる思いです。本年も皆様のご健康と一層のご活躍を祈念する次第です。

組織部部长 松為 迪夫

## 平成10年度支部総会開催状況 (99年2月末日現在)

4月12日	山口県支部	7月5日	千葉県支部
5月9日	鳥根県支部	7月11日	東京中野支部、鳥取県支部
5月10日	愛知県支部	7月25日	山形県支部、新宿支部
5月23日	岩手県支部	9月6日	静岡県支部
5月24日	広島県支部	9月11日	日本電気支部
5月31日	栃木県支部	9月12日	北海道支部
6月4日	大阪支部	9月18日	兵庫県支部
6月6日	埼玉県西支部	9月27日	東京支部
6月7日	埼玉県中央	10月17日	群馬県支部
6月13日	宮城県支部、京滋支部	10月24日	青森県支部、新潟県支部
6月19日	山梨県支部	11月20日	沖縄県支部
6月27日	高知県支部	11月28日	福島県支部
6月28日	熊本県支部	11月29日	石川県支部
7月3日	東芝支部	12月4日	長崎県支部
7月4日	川崎支部、横浜支部、湘南支部、相模支部、西湘支部		

## 平成11年度支部総会開催予定 (99年2月末日現在)

支部名称	月日	開催場所	支部名称	月日	開催場所
山口県支部	4月18日(日)	萩本陣	神奈川県下5支部	7月3日(土)	キリン横浜ビアレッジ
鳥根県支部	4月18日(日)	斐川町社会教育センター	千葉県支部	7月4日(日)	ホテルニューツカモト
愛知県支部	5月9日(日)	愛知県支部	東京新宿支部	7月10日(土)	新宿校舎第3会議室
鳥取県支部	5月15日(土)	鳥取市	大阪支部	7月10日(土)	東洋ホテル
広島県支部	5月16日(日)	広島市ますみ	山形県支部	7月	オーヌマホテル
岩手県支部	5月22日(土)	盛岡労働福祉会館	静岡県支部	9月5日(日)	名鉄ホテル
栃木県支部	5月23日(日)	ホテルニューイタヤ	北海道支部	9月11日(土)	三川屋会館
埼玉県中央支部	6月5日(土)	大宮市民会館	青森県支部	9月25日(土)	奥入瀬溪流入口焼山
東京八南支部	6月13日(日)	八王子労政会館	大分県支部	9月25日(土)	大分市割烹いそよし
東京中野支部	6月中旬		東京支部	10月10日(日)	新宿校舎
山梨県支部	6月18日(金)	紫玉苑	福島県支部	10月16日(土)	日立クレジット 研修所猪水荘
宮城県支部	6月19日(土)	東北電気会館	新潟県支部	11月3日(祝)	月岡温泉 清風苑
埼玉県西支部	6月20日(日)	東松山 紫雲閣	長野県支部	11月23日(祝)	長野市
高知県支部	6月26日(土)	魚竹	沖縄県支部	11月19日(金)	パシフィックホテル
熊本県支部	6月27日(日)	産業文化会館	京滋支部	12月4日(土)	京都市法華クラブ
東芝支部	7月2日(金)	新宿校舎第4会議室			

## 山口県支部の活動

校友会本部で応化会選出理事として6年間務めた後、平成元年勤め先の都合で徳山に戻り、はや10年となります。翌平成2年に前支部長である重村修二氏の後を継ぎ、山口県支部35年の歴史の直近8年を4代目支部長として務めております。本部では組織部理事として全国の支部の拡充に努めて参りましたが、その経験を基に、支部の安定発展こそが校友会引いては学園の発展に繋がるとの認識で努力しております。

山口県支部では、年1、2回の幹事会と、年1回の総会・懇親会を開催しており、総会・懇親会は本部理事の出席と毎回20数名の参加で、県内4箇所を巡りながら開催し、順調に推移しております。約140名の支部員の移動も激しく、其の追跡も大変ですが、中途退学の本学出身者2名を発掘、本部コンピュータへ正規会員として登録し、支部の強力なメンバーとなって頂いた事は大変心強い事でした。毎年一人でも多く活動に関心を持って頂くこと、また近隣支部との交流を積極的に行うように努めており、鳥根全国大会へも積極的に応援をしたいと思っております。



山口県支部総会（下関市シーモール小葉三）平成10年4月12日

## 神奈川県五支部の活動

神奈川県では交通機関の利便性の関係から、川崎、横浜、湘南、相模、西湘の5支部に別れ活動を行っております。各支部は通常の活動は個別に行っておりますが、相互に情報の交流を行い、支部総会・懇親会は合流して行っております。支部総会の開催場所は5支部の持ち回りで、総会に併せて地域毎の特徴を活かしたイベントを開催しております。

その中であって、西湘支部では5月に釣大会（鳥賊）、8月親睦会（暑気払い）、9月釣大会（鰹、鯖等）、11月忘年会（温泉）、等々、支部の地域特性に合わせた活動を行っております。また、今年度は神奈川県五支部の合同親睦会を準備する当番支部に当たっており、盛夏の7月11日（土）、城下町小田原「ウイング」で第7回神奈

## 支部長 溝上 俊治（昭和29年工化卒）



美彌台にて 平成10年5月8日

思い起こしますと、私の校友会活動の原点は、昭和26年の応化会再興にあると思います。戦後途絶えていた組織を、級友と共に全化学系クラスを説得し、同意を得て、在籍時に月謝とともに終身校友会費を納付する制度を創設し、山根茂先生を応化会会長として再出発しました。これが同窓会を経て現在の校友会への基礎になったものと思います。

私は支部の皆様のように申し上げます。『校友の動向を把握し本部への報告や本部への名簿作成依頼と地方の要望伝達などを常に継続的に行い、支部活動を活発化したいと念願している。特に、同窓は真に有難い存在であり、又、頼れる存在でもある。同窓はお互いに相互護憲の精神で共に発展すべきで、その為の会であると考えている。私は仕事をする時には先ず、同窓会名簿を見て、同窓の有無を確認してから其の会社にアプローチする。同窓はお互いに相互互憲で共に発展すべきで、その為の同窓会でもある。自由に話し合え、互いに助け合える会にしていきたい。』この様な気持ちで一層、山口県支部を発展させていきたいと思っております。

## 神奈川県西湘支部 支部長 小磯 章治（昭和47年機械卒）



釣大会【早川港沖】 平成10年9月27日

## 吉野業壽会とウイング



神奈川県五支部総会 ウイング小田原 平成10年7月11日

## 大阪支部の活動

大阪支部は昭和31年に結成されました。私が6代目の支部長となり、今年で9年目を迎えております。

約20年前には兵庫県支部、京滋支部も大阪支部であった関係から、現在も総会には相互に出席しあう等、両支部との旧交を温めております。また、その事が互いの活躍の源ともなっております。

大阪支部は平成8年に40周年を迎え、記念総会を奈良猿沢荘ホテルに於いて開催いたしました。当日は、先輩である北森徳次氏の案内で奈良東大寺の内部を特別に見学し、また南雲校友会会長から祝辞を戴きました。この時、奈良県在住の会員や若い人たちからゴルフコンペを始めてはという話が持ち上がり、早速開催の運びとなりました。役員会を兼ね、若い人たちを誘ってのゴルフコンペは、第1回は3組、第2回も3組の楽しい集いとなりました。



第42回支部総会（新千歳阪急ホテル） 平成10年6月

### 本コーナーへ投稿のお願い

支部だよりのコーナーでは皆様の支部からの投稿をお待ちしております。活動状況、トピックス、新しい企画、将来の夢、等々、支部の活動に関することなら何でも頂ければ、紙面の許す限り掲載していきたいと考えております。お便りをお待ちしております。

川五支部総会・合同懇親会を開催いたしました。

当日は恩師、校友会役員、全国大会（鳥根）実行委員の方々のご出席と、総数70名の参加を得て盛大に開催する事が出来ました。米賓のご挨拶では発展する学園の姿を伺い、また、鳥根全国大会委員長の熱のこもったお話しに「ようこそ神々のふるさと鳥根へ」の合い言葉のもと参加の気運も一気に盛り上がったようです。

合同懇親会では、カラオケ、ビンゴゲームなど、終了予定時間を延長する盛り上がりでした。校友全員がいつまでも健康で更に多くの参加を願いつつ次回の開催支部である川崎支部にバトンタッチをしました。

## 支部長 近藤 竹司（昭和31年建築卒）



第5回ゴルフコンペ 平成10年6月 茨木カントリー倶楽部

第3回ゴルフコンペには兵庫県支部も参加していただき、平成9年6月の支部総会当日に行いました。支部総会には学園から本郷理事長、大橋学長をお迎えし、ゴルフ談義に花を咲かせるなど、2次会も盛況に行う事が出来ました。

平成10年6月、総会当日の第5回ゴルフコンペは、関西の名門コース・茨木カントリーにおいて開催しました。南雲校友会会長、吉岡同副会長を迎え、また若い会員も多数出席し、6組で盛大且つ楽しいコンペを開催する事が出来ました。引き続いての総会も例年以上の盛り上がりでした。

今後もこの勢いでゴルフを含めた新企画を立案し、若い会員にも楽しんで参加してもらおうと、副会長6名と共に頑張っております。



## 平成10年度事業報告

平成10年度の主な事業内容は、例年どおり学園への援助活動、講演会、支部長会、新年懇親会、会報・卒業生名簿の発行等を行いました。

本会の社会的使命である学園に対する援助活動は、学園の催しアドバンス・センターの開所式に100万円、高等学校の50周年記念式典に50万円、優秀学生生徒26名に対する奨励金132.5万円、学生生徒活動に123万円の支援を行いました。

講演会は、総会当日、本学名誉教授で勲一等瑞宝章・文化勲章等受賞の今井功先生に「私のコペルニクスの転回」という演題で講演をいただきました。何十年ぶりの学生気分をさせて頂きました。

支部長会は、9月19日・20日鬼怒川温泉にて開催、活発な議論が交わされ、特に参加者の集め方などが多かった。翌日は地元栃木県支部の有志が自分の車で名所旧跡を案内して頂き、参加者一同感謝の気持ちでいっぱいでした。ありがとうございました。

10年度の各支部総会は、2月現在37支部で開催され、総勢870名の出席をいただきました。

新年懇親会は、1月30日に新宿校舎28階で開催、来賓

も含め219名でありました。最近では学園関係者のほか、大学後援会・専門学校後援会・高等学校PTAの役員も参加されオール工学院の感があります。

会報発行は、発行部数60,000部、現在は住所判明者には全員発送しております。卒業生名簿は毎年発行しております。

平成10年3月31日現在、本年度新たに正会員になられた新卒業生2,365名(大機械403名、大応化352名、大電情460名、大建築404名、専門367名、高校311名、中学68名)を含め、住所判明の会員は約60,700名になっています。

### 99年度版卒業生名簿CD-ROMの配布開始

本年3月初めての卒業生を出した工学院大学附属中学校をはじめ、大学・大学院・専門学校・附属高等学校の卒業予定者を含む全卒業生を掲載した、CD-ROM版の名簿ができました。希望者には1枚3000円でお分けしております。振替用紙でお振り込み頂ければ、お送り致します。

## 平成10年度収支計算書

平成10年4月1日から平成11年3月31日まで

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	科目	予算額	決算額	差異
【収入の部】				百周年引当支出	1,000,000	1,000,000	0
基本財産運用収入	( 130,000)	( 120,000)	( 10,000)	全国大会引当支出	1,000,000	1,000,000	0
基本財産利息収入	130,000	120,000	10,000	全国大会百周年経	300,000	803,393	△ 503,393
会費収入	( 45,358,000)	( 45,254,000)	( 104,000)	消耗雑費	50,000	1,344	48,656
会費収入	45,358,000	45,254,000	104,000	管理費	( 12,810,000)	( 12,312,523)	( 497,477)
維持協力会費収入	( 3,500,000)	( 4,539,000)	( △ 1,039,000)	総会費	1,200,000	1,141,288	58,712
維持協力会費収入	3,500,000	4,539,000	△ 1,039,000	本部会議費	1,800,000	1,883,273	△ 83,273
寄付金収入	( 50,000)	( 179,600)	( △ 129,600)	その他会議費	2,200,000	1,488,529	711,471
寄付金収入	50,000	179,600	△ 129,600	給与手当	4,600,000	4,499,914	100,086
雑収入	( 700,000)	( 1,784,662)	( △ 1,084,662)	福利厚生費	500,000	556,117	△ 56,117
受取利息・配当	650,000	1,646,429	△ 996,429	旅費・交通費	40,000	51,640	△ 11,640
雑収入	50,000	146,271	△ 96,271	通信費	500,000	968,621	△ 468,621
当期収入合計(A)	49,738,000	51,885,300	△ 2,147,300	振替手数料	100,000	93,970	6,030
前期繰越収支差額	9,036,754	9,036,754	0	事務用品費	600,000	653,879	△ 53,879
収入合計(B)	58,774,754	60,922,054	△ 2,147,300	消耗品費	60,000	74,103	△ 14,103
【支出の部】				印刷製本費	70,000	67,850	2,150
事業費	( 27,740,000)	( 25,870,100)	( 1,869,900)	修繕費	200,000	181,125	18,875
学園援助費	0	1,500,000	△ 1,500,000	賃借費	280,000	279,336	644
学生生徒活動援助費	1,250,000	1,230,000	20,000	対外費	100,000	0	100,000
学生生徒奨励金	1,350,000	1,325,000	25,000	慶弔費	300,000	206,300	93,700
会報印刷費	2,530,000	2,445,450	84,550	公租公課	60,000	36,947	23,053
発送作業費	830,000	537,967	292,033	雑費	200,000	129,631	70,369
郵送費	6,870,000	5,263,590	1,606,410	固定資産支出	( 500,000)	( 299,250)	( 200,750)
取材料費	100,000	56,579	43,421	資産取得支出	500,000	299,250	200,750
印刷費	2,800,000	2,532,474	267,526	特定資産支出	( 4,600,000)	( 18,600,000)	( △ 14,000,000)
協会会費割戻金	1,130,000	1,236,300	△ 106,300	協力会費引当支出	2,000,000	3,000,000	△ 1,000,000
支部出張費	1,700,000	1,634,820	65,180	会館建設引当支出	2,000,000	15,000,000	△ 13,000,000
支部総会会費	700,000	264,000	436,000	退職給与引当支出	600,000	600,000	0
宣伝費	780,000	740,000	40,000	予備費	( 1,850,000)	( —)	( 1,850,000)
支部関係雑費	50,000	6,300	43,700	当期支出合計(C)	47,500,000	57,081,873	△ 9,581,873
調査費	200,000	200,000	0	当期収支差額(A)-(C)	2,238,000	△ 5,196,573	7,434,573
給与手当	4,600,000	3,768,706	831,294	次期繰越収支差額(B)-(C)	11,274,754	3,840,181	7,434,573
福利厚生費	500,000	324,177	175,823				

(注) △印は予算比超過となる金額である。

## 平成10年度貸借対照表

平成11年3月31日現在 (単位:円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
1. 流動資産	95,783,441	1. 流動負債	106,831,698
2. 固定資産	185,748,184	2. 固定負債	8,385,600
		3. 正味財産	166,314,327
		(うち基本金)	( 20,000,000)
合計	281,531,625	合計	281,531,625

## 平成10年度財産目録

平成11年3月31日現在 (単位:円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
流動資産		負債	
1. 現金預貯金	82,032,471	1. 一般預り金	128,698
2. 短期有価証券	13,750,970	2. 在学生会費預り金	106,703,000
固定資産		3. 退職給与引当金	4,385,600
1. 基本財産引当預金	20,000,000	4. 長期事業引当金	4,000,000
2. 什器備品	3,259,784	正味財産	166,314,327
3. 電話加入権	102,800	(うち基本金)	( 20,000,000)
4. 長期預金	162,385,600		
合計	281,531,625	合計	281,531,625

## 平成11年度収支予算書(案)

(単位:千円)

平成11年4月1日から平成12年3月31日まで

△印は前年度より減を示す

科目	予算額	前年度予算額	増減	科目	予算額	前年度予算額	増減
1 収入の部				●管理費	(15,910)	(12,810)	3,100
基本財産収入	120	130	△ 10	総会費	1,200	1,200	0
会費収入(6単体)	44,919	45,358	△ 439	本部会議費	3,800	1,800	2,000
協力会費収入	4,000	3,500	500	その他の会議費	3,300	2,200	1,100
寄付金収入	50	50	0	人件費	5,100	5,100	0
雑収入	700	700	0	給与手当	4,500	4,500	0
当期収入合計	49,789	49,738	51	福利厚生費	600	600	0
前期繰越収支差額	3,840	9,036	△ 5,196	旅費・交通費	40	40	0
収入合計	53,629	58,774	△ 5,145	通信費	500	500	0
2 支出の部				振替手数料	100	100	0
●事業費	(33,380)	(27,740)	5,640	事務用品費	600	600	0
学園援助費	2,000	0	2,000	消耗品費	60	60	0
学生・生徒活動援助費	1,250	1,250	0	印刷製本費	70	70	0
学生・生徒奨励金	1,350	1,350	0	修繕費	200	200	0
会報・出版費	9,330	10,330	△ 1,000	賃借費	280	280	0
会報印刷費	2,530	2,530	0	対外費	100	100	0
発送作業費	830	830	0	慶弔費	300	300	0
郵送費	5,870	6,870	△ 1,000	公租公課	60	30	30
取材料費	100	100	0	雑費	200	200	0
印刷費	2,800	2,800	0	●資産取得支出	( 500)	( 500)	0
支部関係費	4,530	4,360	170	資産取得支出	500	500	0
維持会費還付金	1,300	1,300	0	●基本金繰入支出	( 0)	( 0)	0
支部出張費	1,700	1,700	0	基本金繰入支出	0	0	0
支部総会費	700	700	0	●特定預金支出	(5,600)	(4,600)	1,000
支部配付費	780	780	0	協力会費引当資産支出	3,000	2,000	1,000
支部関係雑費	50	50	0	会館建設引当資産支出	2,000	2,000	0
調査費	0	200	△ 200	退職給与引当資産支出	600	600	0
人件費	5,100	5,100	0	●予備費	(2,000)	(1,850)	150
給与手当	4,500	4,500	0				
福利厚生費	600	600	0	当期支出合計	57,390	47,500	9,890
特別事業費	6,970	2,300	4,670	当期収支差額	△ 7,601	2,238	△ 9,839
全国大会100周年経費	570	300	270	合計	49,789	49,738	51
100周年引当預金支出	5,400	1,000	4,400	次期繰越収支差額	3,840	11,274	△ 7,434
全国大会引当預金支出	1,000	1,000	0				
消耗雑費	50	50	0				

## 第54回評議員会 第43回総会 開催お知らせ

会長 南雲 芳夫

日時 平成11年5月30日(日)12時30分～16時  
 場所 工学院大学 新宿校舎3F  
 0312教室 大階段教室  
 議案 第1号 平成10年度事業報告、収支決算報告並びに財産目録承認の件  
 第2号 平成11年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件

(注1) 本誌に同封の郵便はがきにより、折返し出欠の有無をご回答ください。  
 はがきには、50円切手をお貼り下さい。  
 (注2) 施行細則第13条により、当該議事について意思表示のない場合は、同意の意思表示とみなして、出席者数に加えることができますのであらかじめご了承下さい。

### 総会当日のプログラム

受付 工学院大学3F 12時より  
 挨拶 会長 12時30分より  
 表彰式 退任役員・優秀学生 12時40分より  
 議事 総会・評議員会同時開催 13時より  
 講演 最勝寺 靖彦氏 14時30分より  
 祝辞 学園理事長 16時30分より  
 近況報告 学長・校長  
 懇親会 28F  
 講演 最勝寺 靖彦氏  
 演題 「風水と空間」  
 略歴 昭和21年6月生  
 昭和44年 工学院大学建築学科卒業  
 景山松林建築設計事務所入社  
 昭和50年 工学院大学大学院建築学科修士課程修了  
 昭和52年 工学院大学専門学校講師



昭和48年～56年 文化庁倉敷町並保存計画調査研究  
 昭和59年 最勝寺研究室開室  
 平成3年 日本工業出版「すまいと電化」編集委員  
 平成7年 TERA歴史景観研究室開室  
 現在徳島県協町重伝建保存地区吉田家改修設計  
 著述 日本文化と建築・空間の解説・職人と語る・ヒマラヤ山麓のひとと空間(共著)他

### 平成11年度事業計画(案)

本年度の事業は、本会の主目的である援助活動として学園および学生・生徒に対し援助を行います。  
 講演活動として、総会日および全国大会日に講演会を開催します。  
 広報活動は会報発行・99年度卒業生名簿発行のほか、本年は創立100周年記念誌の発行を行います。ホームページは今年度から委員会を設け、新しい情報を挿入して行く方針です。

親睦活動として、総会日に懇親会、支部長会、各支部における懇親会等のほか、本年は8月に高根県松江市で全国大会、10月に創立100周年祝賀会を開催します。  
 本年は全国大会と100周年記念と2大イベントが重なり、本部としても忙しいばかりでなく、会員の皆様にはご負担をおかけしますが、是非ご参加下さいますよう、お願いいたします。

### ●お知らせ

#### 表彰(平成10年度総会に於いて)

##### (1) 感謝状贈呈

副会長 間宮 眞佐人  
 榎本 忠良  
 常任理事 田中 博国  
 理事 米沢 隆男  
 関口 勇

理事 船越 勇  
 中場 十三郎  
 北海道支部長 馬淵 寛志  
 中野支部長 樋口 利一  
 八南支部長 菊池 誠  
 相模支部長 清水 利治

##### (2) 学生・生徒の表彰状贈呈

種別	学 科 学 年	氏 名	
大 学	第1部 機械工学コース 2年 機械システム工学科 2年	瀬戸 一 哲 塩澤 重 章	
	第2部 機械工学科 2年	山内 孝 宏	
	第1部 応用化学科 2年 環境化学工学科 2年	小島 香 織 岩橋 和 磨	
	第2部 工業化学科 4年	伊藤 亜希子	
大 学 院	第2部 電気工学科電気工学コース 3年 電気工学科電子工学コース 2年 電気工学科情報工学コース 2年	佐藤 崇 志 吉岡 達 哉 根田 奈 々	
	第1部 建築学科建築学コース 2年 建築学科都市建築デザインコース 2年	星野 梢 恵 竹波 由有子	
	第2部 建築学科 2年	三浦 奈緒子	
大 学 院	工学研究科機械工学専攻 工学研究科工業化学専攻 工学研究科情報学専攻 工学研究科電気工学専攻 工学研究科建築学専攻	志村 賢 治 工藤 康 全 横山 智 明 石橋 雄 司 矢野 論	
	昼間部 建 築 科 2年 建 築 科 2年 建 築 科 2年	山本 克 也 大久保 正 中 さちこ	
専 門 学 校	夜間部 応用化学科 2年 建 築 科 2年 土 木 科 2年	藤崎 浩 子 久保 典 子 石井 裕 子	
	高 校	普 通 科 2年 〃 2年 〃 3年	吉田 亮 範 中村 光 伸 藤 嶋

#### 元副会長山崎隆一氏逝く



長年、本会を指導して下さった山崎隆一氏が、平成10年6月29日、68歳で永眠されました。

氏は昭和32年機械工学科を卒業され、城山工業(株)を設立、会社経営のかたわら、本会の副会長を始め、学園理事、機械工学同窓会長などの役職を兼任されました。

謹んでご冥福をお祈り致します。

#### 平成10年度計報

相談役(元副会長)

山崎 隆一 平成10年6月29日

附属高等学校名誉校長

遠藤 鎮雄 平成10年12月5日

名誉会員

喜多村 久雄 平成11年1月23日

## ● 校友の皆様へ

学術図書出版助成

### 「彩適空間への道

— 住民参加による集落計画づくり —」

荻原正三監修 岩田俊二・川嶋雅章著

本書は校友会からの学術図書出版に対する助成により平成10年9月に出版された。

本書は今後の行政運営において、地方分権、地方自治への権限委譲、住民自治機能の重視が大きな課題となりつつある中で、建築学科荻原研究室が静岡県内で実験的に行ってきた住民参加型の集落整備計画の事例をもとに、様々な計画策定の手法を紹介している。森林・河川・山地等の自然環境、農林業等の生産環境、住宅地や道路等の生活環境などの地域の特性に適した集落整備計画を地域住民とともに策定する手法・手順を示している。(農林統計協会・248P・1998年・2500円)

### 100周年記念事業・記念誌について

本年は(社)工学院大学校友会「百周年記念式典」および「工学院大学校友会百年史」の刊行を予定しています。

#### (1) 記念式典

平成11年10月10日(日)(体育の日)に開催します。詳しいことは5月に開催する校友会の定例総会でお知らせする予定です。

#### (2) 「工学院大学校友会百年史」の刊行

##### ① 「写真でつづる百年史」

：校友会百年の歴史、変遷、活動などを振り返る。

##### ② 百周年記念式典写真

：記念式典や大会の様態を掲載する。

##### ③ 挨拶文および祝辞

：校友会会長、実行委員長の謝辞、学校関係者からの祝辞などを掲載する。

##### ④ 校友会組織図、校友会役員名簿

##### ⑤ 校友会・同窓会の歩み

：校友会百年の歴史を紹介する。

##### ⑥ 同窓会会長の語る校友会の思い出

##### ⑦ 校友会支部紹介

##### ⑧ 年表

##### ⑨ 資料ページ

：校友会・同窓会歴代会長、全国大会の歩みなど

##### ⑩ 校友会会則の変遷

##### ⑪ 学園を構成する大学・大学院・専門学校・高等学校・中学校の「今」

##### ⑫ 百年史編集委員名簿

##### ⑬ 編集後記

##### ⑭ 写真集

◎ 会員の皆様で、興味深い資料(写真など)をお持ちの方はぜひご提供下さるようお願い致します。資料は校友会事務局まで提出して頂ければ幸いです。

母校の大学院で、

もう一度勉強してみませんか。

もっと勉強しておけば良かったなあと思う卒業生のために、母校の大学院が変わりました。

#### 特 徴

##### ① 入学金の軽減

・ 入学金25万円が5万円になります。

( 本学卒業生が修士課程に入学する場合)

・ 入学金25万円が全額免除されます。

( 本学修士課程修了者が博士課程に入学する場合)

##### ② 社会人特別選抜と昼夜開講制

・ 一般の入試とは別に企業等に在籍したまま入学できる「社会人特別選抜」を実施しています。選抜方法は、書類審査と面接試験。

( 修士/博士後期課程)

(年2回 9月 2月に実施)

・ 授業は、働きながら学べる昼夜開講制を適用。( 修士課程)

##### ③ 通学に便利な新宿キャンパス

・ 高層ビルに生まれかわって10年。雨の日でも、傘をささずに歩いていけるキャンパスは全国でもここだけです。

##### ④ その他

・ 博士後期課程には、別に学費等の減免制度もあります。

お問い合わせ

工学院大学 大学院課

TEL 03 (3340) 0829

### 校友会のホームページを開設

行事や活動の情報をインターネットでどうぞ！  
ホームページアドレス

<http://www.mesh.ne.jp/kkoyukai/>

メールアドレス [koyujimu@mx6.mesh.ne.jp](mailto:koyujimu@mx6.mesh.ne.jp)

### 校友会提携カードのお知らせ

校友会では、VISA カードとハートカードの発行元と共同で工学院大学校友会エステックカードを発行しております。他のカードと同様ですので、ご利用下さい。(詳細は校友会事務局へどうぞ)

なお、建築学科同窓会会員は提携カードにより同窓会費が自動引落しになる他、独自のシステムによる特典があります。

### 本会より学園に役員等を推薦

学校法人工学院大学より、役員等の推薦依頼があり、理事会において次期評議員の推薦を決定し、次期評議員会において理事・評議委員会副議長・副議長職務代理の各役員を決定し推薦した。

理事 南雲芳夫会長 恒松良一副会長

副議長 谷口宗彦 副議長職務代理 吉岡陽一

評議員 南雲芳夫 片岡国牟 吉岡利幸 山田文

昭 杉山助一 本多幸雄 渡辺征一郎 恒松良一

松為迪夫 横山修一 高木雅行 谷口宗彦 笹

原克 吉岡陽一 佐合道也 太田雅康 寺島敬二

宮澤正義 梶野和己 坂田佳昭 以上20名

### ■ 維持協力会費納入のお願い

現在、本会は学園の大学・専門学校・高等学校に入学する学生・生徒からの入会金で運営されています。

会員数は毎年増加しますが、入学生は一定です。したがって収入は一定ですが、支出は年々増加してゆきます。そこで収入を増やすため、会員の皆様に維持協力会員になっていただいて、会費納入をお願いしています。終身会費を納めていない方はもちろんのこと、納めた方も、ぜひご協力のほどお願い申し上げます。年3,000円以上を納めていただきたいと存じます。

この会費は、3割を納入者居住地の支部に還元し、7割は特定積立金として、積み立てています。

納入には、同封の郵便振替用紙をご利用下さい。

### ◆ 校友会事務局からのお願い

センター試験(1月中旬)、入試(2月上旬および3月上旬)の期間中は、校舎に入ることが出来ません。この期間には、必ず電話等で確認の上、ご来校下さいませようお願いします。

# (社)工学院大学校友会 第13回全国大会(島根大会)開催のお知らせ

社団法人 工学院大学校友会  
会 長 南 雲 芳 夫  
大会実行委員長 平 野 久 雄

20世紀最後の全国大会は豊かな自然と古代出雲文化に彩られた島根県松江市において開催いたします。大会当日は松江水郷祭の前夜祭で、湖上での花火大会も行われます。縁結びと商売繁盛の神様で有名な出雲大社もすぐ近くですので、校友の皆様の素敵な出逢いと21世紀のご繁栄をお待ちしております。家族の皆様にも楽しんでいただけるような企画を準備しておりますので、夏期休暇を利用してご家族とともにご参加ください。

.....“しまね”でお会いしましょう.....

— 全国の校友のみなさん  
島根に集合しましょう! —

開催日 平成11年8月7日(土)  
会場 松江市 ホテル一畑  
参加費 10,000円(ご家族は無料)

## 〈大会実施要領〉

【受付】	14:00 ~ 15:00	
【大会式典】	15:00 ~ 15:30	
【記念講演】	15:40 ~ 17:10	島根女子短期大学学長 藤岡大拙「古代の出雲」
【アトラクション】	17:20 ~ 17:50	郷土芸能「石見神楽」
【祝賀パーティ】	18:20 ~ 20:00	郷土料理と地酒とアトラクション

## 〈共催イベント〉

- (記念イベント) 8月6日(前日) 参考料金
- ゴルフ大会 : 出雲空港カントリークラブ (18,000円)
  - フィッシングゲーム : イカ釣り、シイラ釣り、沖釣り (6,000円~10,000円)
  - 古代出雲文化探訪 : 古代出雲王朝の謎に迫る (5,000円)
  - 島根の建築探訪 : 出雲大社、出雲地方の民家等々 (5,000円)
  - 出雲玉鋼と銀山探訪 : 奥出雲のたたらと大森銀山 (5,000円)
- (観光) 8月8日(翌日)(無料)
- 出雲路半日コース  
出雲大社と島根ワインの半日観光
  - 出雲路一日コース  
出雲大社と松江市周辺の一日観光 (無料)
- 注) 参加人数が少数の場合は取りやめることがあります。あらかじめご了承ください。

## 〈交通アクセス〉

- 飛行機  
東京——出雲空港 90分 名古屋——出雲空港 70分  
東京——米子空港 60分 小松——出雲空港 70分  
大阪——出雲空港 60分  
(出雲空港よりタクシーで30分)  
(空港連絡バス 出雲空港——松江温泉 40分)  
(米子空港よりタクシーで40分)
- 自動車  
大阪——松江 5時間(中国自動車道落合I.C.経由)  
中国自動車道 落合I.C.から2時間  
中国自動車道 三次I.C.から2時間30分
- 列車  
東京——松江 7時間(新幹線経由)  
大阪——松江 4時間(新幹線経由)  
広島——松江 4時間30分  
博多——松江 6時間  
(松江駅よりタクシーで10分)  
(松江駅よりバスで20分、松江温泉下車徒歩3分)
- 高速バス  
・東京(渋谷 夜行) ・大阪 ・広島

## 〈宿泊〉

- ホテル一畑(いちばた)
- 松江アーバンホテル、他



◆交通と宿泊をセットにした割安なパッケージツアーも斡旋します。(問合せは右頁をごらん下さい)

共催イベントの参加および交通・宿泊の斡旋を申し込まれた方には後日資料を送付します。

# 第13回全国大会(島根大会)開催のお知らせ



出雲大社 稲佐の浜

## ようこそ 神々のふるさと島根へ



大山隠岐国立公園 隠岐国賀海岸

## 〈参加申込〉

- 申込方法  
同封の郵便振り込みまたは銀行振込の何れかでお申し込みください。
- ◆ 郵便振込の場合  
添付の申込用紙をご利用ください。
- ◆ 銀行振込の場合  
山陰合同銀行 荏原支店  
普通預金口座 2212229  
工学院大学校友会  
島根大会 会計 前田清行

■ 申込締め切り 平成11年5月31日

■ 申込後の取消し

勝手ながら申し込み後参加を取りやめられた場合は、振り込まれた参加費は大会のお祝い金(ご寄付)とさせていただきますので、予め承知おきください。

## —〈寄付金及び大会誌へ広告出稿のお願い〉—

全国の学園校友のご活躍を広く紹介して、更に連帯の絆が深められるよう充実した内容の「大会誌記念号」の制作と発行を目指しております。

広告の募集に当たり、会員諸氏の「絶大なるお力添え」をいただけますよう校友会本部役員、及び大会実行委員会よりお願い申し上げます。

● 広告サイズ

・A-4	1 頁	10万円
・A-4	1/2頁	5万円
・A-4	1/4頁	3万円
・A-4	1/9頁	2万円
・A-4	1/16頁	1万円

- 掲載事項(希望事項・原稿の有無等)  
・別便にて申込者にお問い合わせ致します。

- 申込み  
・申込期限: 平成11年7月31日  
・申込方法: 同封の振込用紙を使用

- 御祝い(寄付金)のお願い  
当日、ご都合が悪くて全国大会に参加できない会員の方々に御祝い(寄付金)のご協力をお願い申し上げます。

## 〈問い合わせ先〉

■ 大会実行委員会事務局  
〒690-0855  
松江市浜佐田町982-1 (有)環境計画建築研究所 内  
Tel. Fax 0852-36-5015 (担当 矢田和弘)

当日は湖畔にて「神々のふるさと島根」の花火をお楽しみください

全国の校友のみなさん 島根に集合しましょう！

開催日 平成11年8月7日(土)  
会場 松江市 ホテル一畑  
参加費 10,000円(ご家族は無料)

#### 編集後記

本号の編集に当って、本年8月7日に島根で開催される全国大会に対し少しでも多くの参加者が来られるよう表紙裏表紙を含めた全4頁を使って参加要請をしております。

また、八王子校舎に新たに設置されたアドバンスド マテリアルス センターの詳細を、機械工学科の鈴木教授(本年3月末で退職、現在は客員研究員)にお願い致しました。

校友会も創立100周年を迎えるので、記念事業、記念誌関係記事も掲載致しました。

限られた紙面の中で新しい広報部員(寺島敬二・太田雅康・海江秀樹・吉岡利幸・太田幸雄・岩田俊二・五十嵐功・藤田定一)が、一生懸命努力致しましたが、校友諸氏にご満足頂けたかどうか疑問も残ります。

なお、記事における肩書き等は一部執筆当時のものがございましてご了承下さい。